

一般社団法人日本写真学会
第1回 定時社員総会

日時：平成24年5月29日（火） 9:00～9:50
会場：千葉大学 けやき会館 1F 大ホール
千葉市稲毛区弥生町 1-33

【第1号議案】平成23年度事業報告

1. 学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第5条（1））

1-1 学会誌の刊行に関する事項

- 1) 発行回数 6回 74巻2号～6号, 75巻1号
- 2) 総頁数 316頁
- 3) 特集

写真画の美しさを求めて	(74巻2号)
2010年のカメラ	(74巻2号)
2010年の写真の進歩	(74巻3号)
東日本大震災被災写真の修復	(74巻4号)
LED照明機材	(74巻5号)
光電変換効率をいかに上げるか	(74巻6号)
画像保存	(75巻1号)
アンビエント技術	(75巻1号)

4) 主要掲載事項および件数

一般論文	6件	
写真のある美術館・博物館・資料館	12件	
レター	1件	巻頭言 0件
技術レポート	0件	会報 6件
講座	0件	書評 1件
解説	33件	研究会だより 0件
資料	2件	One Point Lecture 1件
口絵	6件	その他（受賞者案内・訃報） 2件

5) 学会誌の Supplement として年次大会の要旨集を発行した。

6) 創刊以来の学会誌を、科学技術振興機構の電子アーカイブ事業により電子ジャーナル化した。それ以降の発行号を同じく科学技術振興機構の J-STAGE に順次掲載し、創刊号から連続して電子ジャーナル化された。

1-2 学術図書の刊行に関する事項

- 1) 「写真の事典」刊行のための出版委員会にて、編集作業を行った。
予定出版社 朝倉書店
刊行予定 2012年秋

2. 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条（2））

2-1 研究発表会、講演会などの実施

- 1) 西部支部例会講演会
(平成23年4月29日, 長岡京市生涯学習センター)
講演数 2件 参加者数 19名
- 2) 2011年度年次大会研究発表講演会
(平成23年5月26～27日, 千葉大学 けやき会館)
年次大会テーマ「日本写真学会 85周年を迎え、写真で培った基盤技術の深耕と新たな展開」
特別講演会「物華天宝—研究も教育も感動から」
藤嶋 昭氏 文化功労者 東京理科大学学長
特別講演会「細江英公の球体写真二元論」
細江英公氏 文化功労者 写真家
招待講演 5件, 受賞講演 4件, 一般講演 38件, インタラクティブ（ポスター）セッション 24件, 総報告件数 71件, 参加者数 189名
- 3) PHOTONEXT2011 日本写真学会セミナー
(平成23年6月21日東京ビックサイト)
テーマ「使用者視線からの最新技術動向と実例の紹介・解説」

セッション数 3件 参加者数 50名（延べ）

- 4) 光機能性材料セミナー
(平成23年6月30日 日本印刷会館)
セミナーテーマ「光電変換効率をいかに上げるか？」
講演数 5件 参加者数 38名
- 5) 西部支部例会見学会
(平成23年7月22日, 岡村印刷工業(株))
講演数 1件 及び見学 参加者数 14名
- 6) 医用画像研究会：講演と見学会
(平成23年7月20日 千葉大学フロンティアメディカル工学研究開発センター)
講演数 1件 研究室の見学および CSPC ツアー 6件
- 7) 西部支部例会見学会
(平成23年10月28日, 国立国会図書館 関西館)
講演数 2件 参加者数 15名
- 8) 画像保存セミナー
(平成23年11月1～2日, 東京都写真美術館ホール)
セミナーテーマ「デジタルアーカイブと東日本大震災被災プリントの修復」
*昨年以前に対し、デジタル画像の保存分野を加え、講演数を倍増し2日間で実施した。
講演数 10件 参加者数 169名
- 9) 第19回カメラ技術セミナー
(平成23年11月18日 国立オリンピック記念青少年総合センター)
セミナーテーマ「若手技術者のために 知識の共有化と技術者の交流を目指して」
講演数 6件 参加者数 104名
- 10) 第1回アンビエント技術セミナー
(平成23年11月21日 富士フイルム(株)東京ミッドタウン本社)
テーマ「アンビエントエレクトロニクス構想とその基盤技術—写真で培った基盤技術の深耕と新領域への展開」
講演数 6件 質疑・討論 1件 参加者数 47名
- 11) 2011年度秋季研究発表
(平成23年12月5日, 京都教育文化センター)
テーマ「若手研究者のために 若手研究者の活性化」
一般セッション 16件, インタラクティブセッション 19件, 参加者数 55名
- 12) 画像4学会合同研究会
(合同開催 平成23年12月12日, 日本印刷会館)
テーマ「画像資産の復元と伝承—デジタル時代の保管環境を考える」
講演数 5件 参加者数 45名
- 13) 西部支部初例会講演会
(平成24年1月6日, 長岡京市生涯学習センター)
初例会：講演数 2件 参加者数 23名
新年会：参加者数 22名
- 14) メディカルイメージング連合フォーラム
(共同開催 平成24年1月19～20日, 那覇市ぶんかテンブス館)
登録演題数 82件 うち3件は特別講演
- 15) 第45回光学5学会関西支部連合講演会
(平成24年1月28日 キャンパスプラザ京都)
テーマ「省エネ時代の光源と照明」
講演数 4件
- 16) 実践カラーマネジメント教室'12
(平成24年3月2日, 富士フイルムグラフィックシステムズ株式会社 本社)

テーマ「第7回カラーマネジメントセミナー～プルーフアー、POD、インクジェットプリンタでの出力実演と撮影から印刷一貫工程見学およびJAPAN COLOR 認証制度の解説」
講演並びに実演と見学数 3件 参加者数 37名

17) デジタル写真基礎講座

(平成24年3月10日 日本大学芸術学部 江古田校舎)
テーマ「デジタル写真のしくみと画像処理の基礎」
講演並びに実演数 3件 参加者数 36名

3. 研究及び調査の実施 (定款第5条 (3))

3-1 部会・研究会活動

各部会・研究会は、以下のような活動を行った。

【画像入出力部会】

研究テーマ、活動方針、またアンビエント画像部会との棲み分けを明確化し、所属する研究会の活動の方向性を決めた。

- ・画像入出力研究会
年次大会の企画・運営に参加した。
- ・カメラ技術研究会
7回の研究会を開催した。第19回カメラ技術セミナーを企画・運営した。年次大会の企画・運営に参加した。
- ・表現と技術研究会
6回の研究会を開催した。年次大会の企画・運営に参加した。
- ・デジタル画像研究会
今年度は研究会としての活動はなかった。
- ・画像評価研究会
今年度は研究会としての活動はなかった。

【アンビエント画像部会】

平成22年9月に活動開始。現在、研究会はアンビエント画像研究会のみのため、部会と研究会を一体の活動として運営している。

- ・アンビエント画像研究会
平成23年度は2回の定例部会を開催した。顔画像に注力して画像の構成要素とアンビエントな情報の融合を探る研究を開始。顔画像構成の第一人者(向田委員, 北海道情報大学)の協力も得た。また、プロの写真家(矢部委員)によるレタッチ技術を元に、写真画像の修正フレームワークを検討し、注視点による実証実験も進めつつある。

【医用画像部会】

現在、研究会は医用画像研究会のみのため、部会と研究会を一体の活動として運営している。

- ・医用画像研究会
平成23年7月に千葉大学フロンティアメディカル工学研究開発センターにおいて医用画像研究会を開催した。
平成24年1月に沖縄で開催されたメディカルイメージング連合フォーラムを写真学会が共同主催するにあたり、主体的に運営に加わった。
年次大会の企画・運営に参加した。医用画像の特別講演1件、オーガナイズドセッション(依頼講演3件, 一般講演1件)を開催した。その他医用画像に関する一般演題の演題集めも行い、ポスターセッション等で発表された。

【画像保存部会】

平成23年度は昨年度に引き続き4回の部会を開催し、平成23年度画像保存セミナーおよび平成24年度の年次大会(画像保存セッション)を企画した。また、デジタル画像の保存に関する取り組みを推進、個人ユーザーのデジタルデータ保存について取り組みを強化することとした。

- ・画像保存研究会
平成23年度画像保存セミナーを企画・運営した(11月1日および2日に開催、有料参加者169名)。
東日本大震災に際して、津波で浸水した家族のアルバムや記念写真などの修復を手助けする活動として、部会で培った技術を活かし、被害状況に応じた修復条件方法をHP等で掲載した。また、年

次大会で被災写真の救済についての講演を企画、実施した。

- ・デジタルアーカイブ研究会
画像保存部会にて、デジタルデータ保存の現状把握のインタビュー等を企画、研究会活動に繋げてゆく。
- ・文化財写真保存ガイドライン検討グループ
4-2参照

【アンビエント技術部会】

- ・アンビエント技術研究会
本年度は6回の研究会を行い、材料系とプロセス系毎に毎回テーマを決めて専門家の講師を招き勉強会を実施した。
日本写真学会第一回アンビエント技術セミナーをアンビエントエレクトロニクス構想とその基盤技術(写真で培った基盤技術の深耕と新領域への展開)のテーマで実施した。(11月21日開催: 有料参加者47名)日本写真学会誌の特集を1件企画・実施した。
- ・光機能性材料研究会
第8回光機能性材料セミナーを一光電変換効率をいかに上げるかをテーマに実施した(6月30日: 有料参加者38名)日本写真学会誌の特集を1件企画・実施した。

【写真文化拡大部会】

- ・実践カラーマネジメント教室、デジタル写真基礎講座、フォトネクストセミナー、CP+セミナーの各実行委員会(または担当者)を統括した。各セミナーの実績については2-1参照。
- ・CP+における写真学会展示コーナーで、作品の展示及び当会の活動紹介を行った。

【科学写真研究会】

- ・年次大会・秋季研究発表会での原子核乾板に関する研究発表を勧誘し、年次大会で関連4件、秋季研究発表会で関連13件の発表を行い、この分野の拡大を図った。

3-2 技術委員会全体による活動: 「写真の進歩」作成(進歩レビュー分科会)

専門分野別の技術進歩年次レビュー「2010年の写真の進歩」作成を行い、学会誌(74巻3号)およびホームページ上で報告した。本年より新たに「ディスプレイ」を「画像出力」の中の小項目として追加した。

4. 内外の関連学協会との連絡及び協力 (定款第5条 (4))

4-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会、討論会などの実施

- 1) 第48回アイソトープ・放射線研究発表会
(平成23年7月6～8日, 日本科学未来館, 東京, 日本アイソトープ協会主催, その他62学会と共催)
講演数 155件 参加者数 710名
- 2) 画像4学会合同研究会
(合同開催 平成23年12月12日, 日本印刷会館)
テーマ「画像資産の復元と伝承～デジタル時代の保管環境を考える」
講演数 5件 参加者数 45名
- 3) メディカルイメージング連合フォーラム
(共同開催 平成24年1月19～20日, 那覇市ぶんかテンブス館)
登録演題数 82件 うち3件は特別講演
- 4) 第45回光学5学会関西支部連合講演会
(平成24年1月28日 キャンパスプラザ京都)
テーマ「省エネ時代の光源と照明」
講演数 4件
- 5) CP+ 技術アカデミー
(平成24年2月9～10日, パシフィコ横浜: カメラ映像機器工業会主催, 日本オプトメカトロニクス協会・日本光学会と共同での協力)
講演数 9件
- 6) CP+ 学術団体コーナー展示
(平成24年2月9～12日, パシフィコ横浜: 日本オプトメカトロニクス協会・日本光学会と共同)

写真文化拡大部会・広報委員会共同で、学会活動紹介及び写真作品展示を実施した。

参加者 多数

4-2 文化財写真保存ガイドライン（仮称）策定活動

文化財を写真により記録保存する場合およびこれに類する場合の標準的な記録（保存）方法に関する指針を示すガイドラインの策定を目指した文化財写真技術研究会（任意団体）との共同活動「文化財写真保存ガイドライン検討グループ」の審議を行った。目標であったH23年度中の発行には多少遅れたが、H24年5月にガイドラインの発行公開を予定している。

5. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条（5））

5-1 平成23年度学会賞の授与

授賞式において、平成23年度学会賞の授与を行った。学会賞受賞者は次の通りであった。

名誉賞 藤嶋 昭（東京理科大学学長、文化功労者）
 名誉賞 細江英公（写真家、文化功労者）
 功績賞 岡野幸夫（びわこ学院大学）
 功労賞 吉田英明（オリンパスイメージング）
 学術賞 大関勝久（富士フイルム）
 学術賞 内田孝幸（東京工芸大学）
 技術賞 岩崎洋一、遠藤 宏、内田亮宏、河合智行、青木貴嗣（富士フイルム）
 技術賞 奥野丈晴、山田雅之（キャノン）
 論文賞 范 颖、邓 珮、鶴岡秀樹、青木直和、小林裕幸（千葉大学）

進歩賞 中 竜大（名古屋大学）

進歩賞 豊嶋悠樹（富士フイルム）

東陽賞 (株)ニコン（代表 尾畑正光）

会長表彰 廣瀬祐三（元日本写真学会事務局長）

5-2 平成23年度コニカミノルタ画像科学振興財団写真研究奨励金（コニカミノルタ写真研究奨励金）の授与

授賞式において、平成23年度コニカミノルタ写真研究奨励金の授与を行った。

交付対象者 森島邦博（名古屋大学）

5-3 平成23年度小島裕研究奨励交付対象者の選考

平成23年度小島裕研究奨励金は、選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。

交付対象者 久下謙一、酒井朋子（千葉大学）

5-4 平成24年度学会賞選考

平成24年度の学会賞は、各選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。

名誉賞 阿部隆夫（信州大学）

功績賞 該当なし

功労賞 岩崎 仁（京都繊維工芸大学）

功労賞 高橋則英（日本大学）

学術賞 松本政雄（大阪大学）

学術賞 宮坂 力（桐蔭横浜大学）

技術賞 北 弘志、中山知是、柏木寛司、加藤栄作、古川慶一（コニカミノルタテクノロジーセンター）

技術賞 宮野 俊、近藤 茂、竹下幸孝（富士フイルム）

論文賞 佐藤 慈、坪井麻早記、青木直和、小林裕幸（千葉大学）

進歩賞 長縄直崇（名古屋大学）

東陽賞 大石恭史（元富士フイルム）

会長表彰 金田英治（元三菱製紙）

会長表彰 鎌田桂成（富士フイルム）

会長表彰 白岩洋子（紙本・写真修復家）

5-5 平成24年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考

平成24年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金

は、選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。

交付対象者 今泉祥子（千葉大学）

5-6 平成24年度小島裕研究奨励交付対象者の選考

平成24年度小島裕研究奨励金は、選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。

交付対象者 山田勝美（東京工芸大学）

交付対象者 和崎浩幸（木更津工業高等専門学校）

6. その他目的を達するために必要な事項（定款第5条（6））

6-1 総会（1回）

平成23年5月26日（木）、千葉大学・けやき会館（千葉市）において第33回通常総会が開催され、平成22年度事業報告、平成22年度収支決算報告および会計監査報告、平成23年度事業計画案、平成23年度収支予算案、平成23年度役員等の選任、会長の選任、副会長の選任、会員の除名の計9件の議案が承認された。

6-2 理事会（12回）

毎月定例に開催し、本学会の運営に必要な事項を審議した。

1) 会務分担

役員及び会務の分担は次の通りであった。

会長	高田俊二（富士フイルム）
副会長（総務）	久下謙一（千葉大学）
副会長（技術）	豊田堅二（コダック）
西部支部長	松本政雄（大阪大学）
総務理事	中野 寧（コニカミノルタエムジー）
庶務委員長	鈴木博文（ニコン）
財務委員長	小林和久（三菱製紙）
技術委員長	豊田堅二（コダック）
編集委員長	久下謙一（千葉大学）
拡大PT委員長	中野 寧（コニカミノルタ）
広報委員長	桑山哲郎（キャノン）
秋期研究報告会実行委員長	岩崎 仁（京都工芸繊維大学）
アンビエント技術部会長	半那純一（東京工業大学）
アンビエント技術副部会長	内田孝幸（東京工芸大学）
画像入出力部会長	小林裕幸（千葉大学）
画像入出力副部会長	岩本康平（セイコーエプソン）
医用画像部会長	羽石秀昭（千葉大学）
医用画像副部会長	松本政雄（大阪大学）
画像保存部会長	大関勝久（富士フイルム）
写真文化拡大部会長	甲田謙一（日本大学）
写真文化拡大部会委員	荻野正彦（水上印刷）
監事	金田英治（元三菱製紙）
監事	三宅洋一（千葉大学）
会勢拡大委員長	山岸 治（日本写真学会事務局長）
幹事・広報副委員長	匝瑳俊雄（ニコン）
幹事・新制度法人化対応委員長	高橋則英（日本大学）
幹事・アンビエント画像部会長	津村徳道（千葉大学）
幹事・画像保存副部会長	山口孝子（東京都写真美術館）
事務局長	山岸 治

2) 役員研修会（8月）

会長以下の役員が研修会を開催し、本学会および年次大会の改革について議論した。

6-3 支部の運営に関する会議

1) 西部支部総会

（平成23年4月26日、長岡京市中央生涯学習センター）

平成22年度事業報告、同決算・会計監査報告、平成22年度事業計画案、同予算案の計4件の議案が承認された。

2) 西部支部幹事会

2回の幹事会を開催し、講演会、見学会などの企画、準備及び支部運営に関する協議を行った。

6-4 各委員会

- 1) 役員等選考委員会
役員等の選考を行った。
- 2) 人事委員会
学会職員の勤務状況と処遇についての協議を行い、来年度の処遇を決定した。
- 3) 庶務委員会
平成 22 年度事業報告並びに平成 23 年度事業計画案の総会承認を得た。活動計画表、組織系統図を更新した。平成 23 年度事業報告案並びに平成 24 年度事業計画案を作成し、理事会承認を得た。
- 4) 財務委員会（2 回）
平成 22 年度決算報告並びに平成 23 年度予算案の総会承認を得た。平成 22 年度中間決算内容を審議し承認した。会の事業収支改善の検討を行った。平成 23 年度決算報告並びに平成 24 年度予算案を作成し、理事会承認を得た。
- 5) 編集委員会（3 回）
学会誌の編集方針、特集記事の企画検討、「解説」、「口絵」、「ワンポイントレクチャー」、「写真のある美術館・博物館・資料館」の著者選定を行い、著作権委譲手続、投稿論文の原稿送付手続の整備などを図った。科学技術振興機構の J-STAGE を利用して、学会誌の電子ジャーナル化を進めた。編集委員会の改組を行い、8 名の委員からなる企画編集委員会と、編集協力員とに再編した。
- 6) 技術委員会（電子メールによる会議、随時）
6 つの技術部会のうち 2 部会ずつ、交代で理事会に活動状況の報告を行った。日本写真学会誌「2010 年の写真の進歩」を担当。
- 7) 企画実行委員会（電子メールによる会議、随時）
新規事業の企画ならびに実行のための活動を模索したが、委員会組織が未整備なため限定的であった。組織の整備が課題である。写真に関する資格検定であるフォトマスター検定の監修協力事業を引き続き実施した。
- 8) 国際交流委員会
海外関連協会との連絡協力、国際学会参加などについて構想を技術部会単位で、検討を行った。その中で、国際ワークショップ XNPIG (International Workshop on X-ray and Neutron Phase Imaging with Grating) に日本写真学会として後援をした。
- 9) 広報委員会
ホームページの内容充実を行った。イベント欄への掲載可能件数をこれまでの 6 件から 10 件に増強し、多くのイベントが掲載できるようにした。また、特集欄に RGB のバナーを掲載し、人目を惹くよう工夫した。ホームページのタイムリーな更新を行うことにより会員への情報提供サービスを向上させた。
- 10) 会勢拡大委員会
各セミナー会場で、当会の活動の紹介と入会案内の配布を行い、会員外の一般に対して本学会入会への勧誘・啓蒙活動を行った。
- 11) 新制度法人化対応委員会
2011 年度総会において新定款案の一部微修正および一般社団法人への移行を改めて提案した。総会後に申請書類を整え、8 月 23 日に内閣府に移行認可一次申請を行い、11 月 22 日の最終申請を経て、12 月 9 日に公益等認定委員会で認可され、3 月 21 日に内閣総理大臣から一般社団法人への移行認可を受けた。この間、役員選出規程などを新定款に対応させるための見直しや、各種学会規程類の再構成案の検討を行った。
4 月 1 日付けで一般社団法人への登記を行った。認可後は新定款に基づいた第一回定時社員総会の通知や召集、進行についての検討を行った。
- 12) 出版準備委員会
写真の事典の編集を引き続き進めた。ほぼ原稿が出そろい、2012 年秋に朝倉書店から刊行の予定で作業を進めた。

6-5 各担当

- 1) 日本学術会議担当
特に要請がなかったので活動はなし。
- 2) JABEE 担当
特に要請がなかったので活動はなし。
- 3) 画像関連 4 学会の協働
画像 4 学会合同研究会を開催した。本学会は実行委員会に委員を出して協力した。4-1 の 3) を参照。
- 4) 科学技術振興機構
科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業選定に応募し、その採択に伴い、科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行った。
7. 会勢
本年度末（平成 24 年 3 月 31 日現在）における会員の異動状況は、次の通りである。

	本年度末 (平成 24 年 3 月 31 日現在)	前年度末 (平成 23 年 3 月 31 日現在)	増減
正会員	738 名	754 名	16 名減
賛助会員	45 社	47 社	2 社減

以上

【第 2 号議案】平成 23 年度決算報告・会計監査報告
(192 ページ参照)

【第 3 号議案】平成 24 年度事業計画案

1. 基本方針

- 1) 一般社団法人化の初年度とし、会勢拡大及び財政改善を実行する年度と位置付け、会勢の H22 年度底打ちから H23 年度からの回復基調を着実に軌道に乗せる。
- 2) 写真に関する基盤技術の深耕と基盤技術から更に次世代の画像情報分野への領域拡大と写真文化の裾野拡大の為に、①高度情報通信社会に適合する次世代の画像映像情報分野の技術としてのアンビエント技術部会、アンビエント画像部会、②デジタルも含めた画像保存部会及び最新の医用分野での医用画像部会、③写真産業を支える画像情報技術としての画像入出力部会と写真文化の裾野を拡大する施策と活動の写真文化拡大部会の 6 部会活動の活性化と会員拡大を行う。これらの技術部会活動推進の為、年次大会・研究会・セミナー・学会誌刊行・電子広報の充実及び他学会・他協会との連携の強化を目指す。
- 3) 写真及び画像に関する技術領域を拡大し、研究成果の発表及び関連情報提供の為、写真学会誌の充実と学術図書刊行を行う。
- 4) 会員へのサービスを第一義としながら社会公益性の観点からも学会の運営を行う。
- 5) 以下のことを特に本年度の重要課題として位置付け、行動する。
 - ①画像入出力部会、アンビエント画像部会、医用画像部会、画像保存部会、アンビエント技術部会、写真文化拡大部会の 6 つに再編された技術部会の各部会に、各研究会とセミナー等の実行委員会を組織化して、調査・研究の充実化を図る。
 - ②学会誌の充実の為、論文投稿数の拡大を図る。
 - ③写真・画像関連学会との連携事業等の活発化（画像 4 学会合同研究会実行委員会を編成）。
 - ④学会広報体制の強化と学会情報の活発な発信を図る。
 - ⑤写真技術の保存・継承行動の企画（出版、博物館協同等）。
 - ⑥学会として国際的活動への積極参加（協賛等）。
 以上の基本方針の基に、以下の事業を企画、実施する。

2. 一般社団法人化への移行

2012 年 3 月 21 日付けで内閣総理大臣より認可を受け、2012 年 4 月 1 日付けで一般社団法人 日本写真学会の登記を行い、一般

社団法人への移行を実施した。

平成24年度は、一般社団法人の初年度とし、昨年の総会で承認され、内閣府公益法人認定委員会に申請し、認可を受けた一般社団法人 日本写真学会 の定款と改定した関連規程に従い、法人活動を行う。移行に合わせ、英字名と学会ロゴの変更も行う。

3. 学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第5条（1））

3-1 学会誌の刊行

- 1) 学会誌を年間6冊発行する。
- 2) 年次大会の要旨集を学会誌の2号として発行する。
- 3) 論文投稿を積極的に勧誘し、親切な審査により質の高い論文を数多く掲載する。あわせて投稿料収入の増加を図る。

3-2 学術図書の刊行に関する事項

- 1) 「写真の事典」の2012年秋刊行をめざして、編集作業を進める。

4. 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条（2））

4-1 研究発表会、講演会などの実施

- 1) 年次大会研究発表講演会（平成24年5月29日～30日、千葉大学）
- 2) 秋季研究発表会（平成24年、京都）
- 3) 第9回光機性能性材料セミナー（平成24年6月、東京）
- 4) PHOTONEXT2012 写真学会セミナー（平成24年6月26日、東京ビッグサイト）
- 5) カメラ技術セミナー（平成24年11月22日、国立オリンピック記念青少年総合センター）
- 6) 画像保存セミナー（平成24年11月予定、東京都写真美術館予定）
- 7) 画像4学会合同研究会（平成24年、11月～12月予定、詳細未定）
- 8) 実践カラーマネジメント教室（平成24年、詳細未定）
- 9) アンビエント画像セミナー（平成24年、詳細未定）
- 10) デジタル写真基礎講座（平成24年、詳細未定）
- 11) 西部支部主管行事
 - ①例会（講演会、見学会等：年4回）
 - ②光学五学会関西支部連合講演会（第46回、詳細未定）

4-2 新規事業

一昨年度に再編及び立ち上げた部会の内、特に①アンビエント技術部会・研究会、②アンビエント画像部会、③科学写真研究会及び④医用画像部会の技術領域を高度情報通信社会に適合する次世代の画像映像情報分野の創成と写真産業を支える画像情報最新技術し、調査・研究及び講演等の企画を充実化を行う。更に⑤デジタルアーカイブ研究会を立ち上げ、デジタルアーカイブ領域での調査・研究の充実化を図る予定。

5. 研究及び調査の実施（定款第5条（3））

5-1 技術委員会専門研究会活動の実施

技術委員会の中に本学会の主要科学技術分野別の部会・研究会を設け、以下の活動を行うことにより、本学会会員の研究の発展と資質の向上並びに会員の増強をはかる。特に、本学会が取り組む技術分野の拡大・充実化と写真で培った基盤技術の深耕・展開から、アンビエント情報社会に要請される次世代画像映像技術分野の創成を具体化する。

【画像入出力部会】

部会の研究会活動を活性化させる。

- ・カメラ技術研究会
年7回の研究会を開催する。「カメラ技術セミナー」を企画・運営する。年次大会の企画・運営に参加する。
- ・表現と技術研究会
年次大会の企画・運営に参加する。研究会を隔月で開催する。

【アンビエント画像部会】

年2回の研究会を開催する。見学会等を企画する。

- ・アンビエント画像研究会
年次大会の企画・運営に参加する。研究会の成果を論文として投稿する。

【医用画像部会】

年1回の研究会ないし見学会を開催する。

- ・他の医用画像関係の学会とともにメディカルイメージング連合フォーラムを開催する。
- International Forum on Medical Imaging in Asia (IFMIA) 2012 を他学会と共催する。
- ・医用画像研究会
年次大会の企画・運営に参加する。

【画像保存部会】

H24年度年次大会での画像保存セッションの運営およびセミナーの企画、実行を行う。また、デジタル画像の保存についての取り組みを推進する。

東日本大震災での津波で浸水した家族のアルバムや記念写真などの修復を手助けする活動として、部会で培った技術を活かし、被害状況に応じた修復条件方法をHP等での掲載及び年次大会での発表を緊急企画として行う。

- ・画像保存研究会
「画像保存セミナー」を企画・運営する。画像保存に関する研究会・見学会等を開催する。
- ・デジタルアーカイブ研究会（立上活動中）
個人や小規模施設、博物館、美術館等のデジタルデータ保存を中心に課題を調査この活動を研究会活動に繋げてゆく。
- ・文化財写真保存ガイドライン検討グループ

6-2 参照

【アンビエント技術部会】

- ・アンビエント技術研究会
メンバー・アドバイザー含めた研究会を隔月の頻度で実施する。今年度は画像4学会合同研究会の幹事学会として、アンビエント技術研究会が他の3学会の共通領域の研究会と合同する形で「PE・FDの基盤技術の深耕と新たな産業創成」（仮）をテーマにしたシンポジウムを企画する。合わせて年次大会にける広報とセッションの開催を行う。研究会の成果を学会誌に特集企画を行う。
- ・光機性能性材料研究会
第9回光機性能性材料セミナーを企画開催する。研究会の成果を学会誌に特集企画する。

【写真文化拡大部会】

写真学会と一般の写真愛好家、写真大学を中心とした学生との交流を図る。そのため黒白写真教室など、専門家以外の方々を対象にした企画を行い、参加者に写真学会の存在をアピールできる活動を行ってゆく。写真学会の専門性を活かし、一般人との垣根を低くする活動を行う。

5-2 技術委員会全体による活動：「写真の進歩」作成（進歩レビュー分科会）

専門分野別の年次レビュー「写真の進歩」作成を行い、学会誌上で報告し、学会ホームページに掲載する。

6. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款第5条（4））

- 6-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会、討論会などの実施
 - 1) 2012 画像4学会合同研究会（平成24年度、日本写真学会が幹事学会として、印刷学会、日本画像学会、画像電子学会と共催）
 - 2) アイソトープ・放射線研究発表会（平成24年度 詳細未定 日本アイソトープ協会主催）
 - 3) メディカルイメージング連合フォーラム（共同開催 平成24年度 詳細未定）
 - 4) 第46回光学5学会関西支部連合講演会（平成25年度 詳細未定）
 - 5) 2013年CP+技術アカデミー（協力 平成24年度 カメラ映像機器工業会主催）
 - 6) 2013年CP+学術団体コーナー展示（共同 平成24年度 詳細未定）
 - 7) その他
- 6-2 文化財写真保存ガイドライン（仮称）策定活動
文化財写真技術研究会（任意団体）との共同組織「文化財写真

保存ガイドライン検討グループ」の活動に関して、発行目標であった前年度の取り残し継続事項として、ガイドラインの発行を実現する。

6-3 国際交流に関する事項

各技術部会を通して国際交流の場づくりを行う。画像に関する国際会議について、活動内容、本学会との協同の可能性を検討、国際ワークショップの開催に向けた準備を進める。

- International Forum on Medical Imaging in Asia (IFMIA) 2012 に日本写真学会として協賛を企画する（11月韓国）。

- 2012 International Conference on Flexible and Printed Electronics (ICFPE2012) のセッション協賛を企画する（9月東京大学）。

7. 研究の奨励および研究業績の表彰（定款第5条（5））

7-1 平成24年度学会賞（名誉賞、功績賞、功労賞、学術賞、技術賞、論文賞、進歩賞、東陽賞、会長表彰）の授与。

7-2 平成24年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金の授与

7-3 平成25年度学会賞（名誉賞、功績賞、功労賞、学術賞、技術賞、論文賞、進歩賞、東陽賞、会長表彰）受賞者の選考

7-4 平成25年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考

7-5 平成25年度小島裕研究奨励金交付対象者の選考

7-6 名誉会員の推薦、永年会員の認証

8. その他目的を達するために必要な事項（定款第5条（6））

8-1 運営に関する会議

総会（平成24年5月29日）、理事会（年12回）、西部支部幹事会（年4回）、庶務委員会、財務委員会、人事委員会、JABEE活動対応、その他。

8-2 編集委員会（年4回）

学会誌の編集方針、内容の更新、特集・各種記事の企画、論文審査などを行う。会員からの学会誌に関する意見聴取につとめ、会員が読みたい記事の拡充に努める。論文を投稿ししやすい環境を整備し、投稿論文の増加に努め、それより投稿料収入の増大を合わせて図る。発行号の電子ジャーナル化作業を引き続き進める。

8-3 技術委員会

電子メールによる会議を随時持ち、あるいは必要に応じて各技術部会・研究会の代表者が集まり、研究会の活性化及び活動状況等の情報交換を行う。又、研究会、講演会、セミナーなどを適宜開催し、広く本学会内外に活動状況を提示することにより、本学会における当該科学技術分野の向上を図る。年次大会へ全研究会が参加する体制を整える。

8-4 企画実行委員会

新規事業の企画ならびに実行推進にあたるため、委員会の整備強化を図る。学会として写真に関する資格検定であるフォトマスター検定の監修協力を継続し、その他の関連事業についても検討する。

8-5 国際交流委員会

理事が国際交流委員を兼ねる。議案および活動報告はその都度理事会に諮る（不定期に年数回）

8-6 広報委員会

一般社団法人化と学会の英文名称変更に伴うホームページの改訂を着実に進行。ホームページが備えている機能をフル活用し情報発信を継続的に進行。写真関係のイベント等を通じ、一般の方々へ本会の紹介を積極的に行う。

8-7 会勢拡大委員会

一般社団法人化の初年度とし、会勢拡大及び財政改善を実行する年度と位置付け、会勢のH22年度底打ちからH23年度からの回復基調を着実に軌道に乗せる。

昨年の各種講演会、セミナーでの正会員勧誘に加え、役員主導の勧誘活動を行う。又、賛助会員の減少を食い止めて、デジカメ関連、カメラ流通業など、従来非会員であった分野に積極的に働きかける。

新規技術部会、研究会のメンバー拡大を図り、部会・研究会の活性化を図る。

以上

【第4号議案】平成24年度収支予算案の件 (194ページ参照)

【第5号議案】平成24年度役員等の選任

1-1 新役員候補者（敬称略）

1) 理事 8名

阿賀野俊孝（富士フィルム）	井上直夫（奈良文化財研究所）
甲田謙一（日本大学）	小林和久（三菱製紙）
鈴木博文（ニコン）	羽石秀昭（千葉大学）
松本政雄（大阪大学）	山田勝美（東京工芸大学）

2) 監事 1名

高田俊二（富士フィルム）

1-2 残留役員（敬称略）

1) 理事 9名

岩本康平（セイコーエプソン）	大関勝久（富士フィルム）
荻野正彦（水上印刷）	久下謙一（千葉大学）
桑山哲郎（キャノン）	小林裕幸（千葉大学）
豊田堅二（武蔵野美術大学）	中野 寧（コニカミノルタエムジー）
半那純一（東京工業大学）	

2) 監事 1名

三宅洋一（元千葉大学）

【第6号議案】会員の除名

定款第10条により、4名を除名とする。

以上

【第2号議案】平成23年度決算報告・会計監査報告

貸借対照表
平成23年3月31日現在

Table with columns: 科目 (Category), 当年度 (Current Year), 前年度 (Previous Year), 増減 (Change). Rows include assets (流動資産, 固定資産) and liabilities (流動負債, 正味財産).

正味財産増減計算書
平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

Table with columns: 科目 (Category), 当年度 (Current Year), 前年度 (Previous Year), 増減 (Change). Rows detail the components of net asset changes, including income and expenses.

正味財産増減計算書
平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

Table with columns: 科目 (Category), 当年度 (Current Year), 前年度 (Previous Year), 増減 (Change). Rows detail the components of net asset changes, including income and expenses.

予算対比正味財産増減計算書
平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

Table with columns: 科目 (Category), 予算額 (Budget), 決算額 (Actual), 差異 (Difference). Rows compare budgeted vs actual net asset changes.

予算対比正味財産増減計算書
平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異. Rows include 印刷製本費, 消耗品費, 参加者会合費, etc.

財産目録
平成24年3月31日現在

Table with columns: 貸借対照表科目, 場所・物量等, 使用目的等, 金額. Rows include 現金, 普通預金, 未収会費, etc.

財務諸表に対する注記

1.重要な会計方針

当学会の重要な会計方針は、次のとおりである。

(1)固定資産の減価償却について

減価償却資産について、定額法による減価償却を実施する。但し、ソフトウェア及びその他の固定資産(税法上の繰延資産)については、税法に従い、5年もしくは使用可能期間(合理的な見積年数)により均等償却する。

(2)会計基準について

当学会は、公益法人会計基準について、20年基準に準拠した会計処理を行っております。

2.基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

Table with columns: 科目, 前期末残高, 当期増加額, 当期減少額, 当期末残高. Rows include 基本財産, 特定資産, etc.

3.基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

Table with columns: 科目, 当期末残高, (うち指定正味財産からの充当額), (うち一般正味財産からの充当額), (うち負債に対応する額). Rows include 基本財産, 特定資産, etc.

4.固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

Table with columns: 科目, 取得価額, 減価償却累計額, 当期末残高. Rows include 什器備品, ソフトウェア, etc.

5.その他

(1)基本財産たる資産 : 杉浦六右衛門氏基金 35,000,000円
【平成12年度第22回通常総会第4号議案の決議による。】

平成23年度決算について監査の結果正鵠なることを認める。

平成24年4月20日

監事 金田 英治 (Seal)

監事 三宅 洋一 (Seal)

【第4号議案】平成24年度収支予算案の件

一般社団法人 日本写真学会

収支予算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

収支予算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
(単位:円)			
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用利益	[50,000]	[100,000]	[△ 50,000]
基本財産受取利息	50,000	100,000	△ 50,000
受取年会費	[12,600,000]	[11,500,000]	[1,100,000]
正会員受取会費	6,000,000	6,000,000	0
賛助会員受取会費	6,600,000	5,500,000	1,100,000
事業費取戻金	[6,574,000]	[6,625,000]	[△ 51,000]
講演・研究事業収入	6,574,000	6,625,000	△ 51,000
受取寄附金	[350,000]	[400,000]	[△ 50,000]
受取利息	20,000	20,000	0
雑収入	400,000	400,000	0
広告料	615,000	450,000	165,000
別刷・投稿料代	665,000	500,000	165,000
経常収益計	21,274,000	19,995,000	1,279,000
(2) 経常費用			
給料手当	[18,299,800]	[15,011,996]	[3,287,804]
福利厚生費	4,860,000	0	4,860,000
旅費交通費	730,000	0	730,000
通信運搬費	766,000	0	766,000
消耗品費	266,000	0	266,000
事務所維持管理費	200,000	0	200,000
貸借料	133,000	0	133,000
学会誌等刊行事業費	13,300	0	13,300
原種費	(4,220,000)	(5,010,000)	(△ 790,000)
JSTAG編集料	70,000	80,000	△ 10,000
審査校正費	200,000	600,000	△ 400,000
印刷製本費	20,000	20,000	0
学会誌発送費	3,500,000	3,800,000	△ 300,000
事務員給料	350,000	380,000	△ 30,000
交通費	60,000	60,000	0
講演研究事業費(1)	(4,673,500)	(3,828,996)	(844,504)
給料手当	310,500	320,000	△ 9,500
会場費	326,000	400,000	△ 74,000
会議費	849,000	112,000	737,000
旅費交通費	406,000	490,000	△ 84,000
通信運搬費	70,000	92,000	△ 22,000
印刷製本費	640,000	980,000	△ 340,000
消耗品費	10,000	41,000	△ 31,000
雑費	786,666	624,996	161,670
参加者会合費	1,130,000	680,000	450,000
雑費	145,334	89,000	56,334
講演研究事業費(2)	(1,068,000)	(2,823,000)	(△ 1,765,000)
給料手当	0	7,500	△ 7,500
会場費	70,000	210,000	△ 140,000
会議費	155,000	0	155,000
旅費交通費	387,000	1,020,000	△ 663,000
通信運搬費	150,000	20,000	130,000

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
(単位:円)			
印刷製本費	5,000	265,000	△ 260,000
消耗品費	0	100,000	△ 100,000
諸謝金	140,000	530,000	△ 390,000
参加者会合費	45,000	115,000	△ 70,000
雑費	126,000	555,500	△ 429,500
奨励助成事業費	(1,350,000)	(1,350,000)	(0)
奨励助成準備金	1,350,000	1,350,000	0
新規研究・事業運用準備金	0	2,000,000	△ 2,000,000
管理費	[5,508,200]	[12,495,000]	[△ 6,986,800]
給料手当	(2,440,000)	(7,300,000)	(△ 4,860,000)
事務員給料	1,840,000	5,600,000	△ 3,660,000
臨時雇用賃	600,000	1,800,000	△ 1,200,000
福利厚生費	(370,000)	(1,100,000)	(△ 730,000)
法定福利費	370,000	1,100,000	△ 730,000
会議費	(20,000)	(20,000)	(0)
理事会費	20,000	0	20,000
旅費交通費	(384,000)	(1,150,000)	(△ 766,000)
事務員旅費交通費	200,000	600,000	△ 400,000
役員旅費交通費	184,000	550,000	△ 366,000
通信運搬費	134,000	400,000	△ 266,000
減価償却費	556,500	525,000	31,500
消耗品費	100,000	300,000	△ 200,000
維持修繕費	100,000	100,000	0
印刷製本費	150,000	150,000	0
事務所維持管理費	67,000	200,000	△ 133,000
賃借料	6,700	20,000	△ 13,300
雑費	680,000	680,000	0
諸謝金	100,000	100,000	0
租税公課	100,000	100,000	0
会費負担金	300,000	350,000	△ 50,000
雑費	0	0	0
経常費用計	23,778,000	27,506,996	△ 3,728,996
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 2,504,000	△ 7,511,996	5,007,996
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 2,504,000	△ 7,511,996	5,007,996
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,504,000	△ 7,511,996	5,007,996
一般正味財産期首残高	61,513,729	57,268,259	△ 4,245,470
一般正味財産期末残高	49,009,729	49,756,263	△ 746,534
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	49,009,729	49,756,263	△ 746,534